平成 28 年度第 1 回 仙台市障害者自立支援協議会	
平成 28 年 5 月 24 日	資料４

仙台市障害者自立支援協議会
第３回 地域生活支援拠点等検討部会
開催結果報告

１　日　時　平成２８年４月27日（水）18:00～20:00
２　場　所　本庁舎６階第一会議室
３　出席者　西尾部会長，黒澤副部会長，安達委員，泉委員，岩渕委員，加賀谷委員，片寄委員，小林委員，佐藤委員，鈴木委員，野田委員，福地委員，松本委員，山内委員，米倉委員

４　内容（ワールド・カフェ方式によるグループワークの実施）

〇グループワークテーマ及び司会進行者

◇相談　；　黒澤副部会長
◇緊急時の受入・体験機能；　福地委員
◇専門性の確保　；　米倉委員

〇各グループワークで話し合われた内容

◇相談

・３つのキーワード（「連携」、「機能」、「環境」）を設定し、それぞれの現状と問題点、その背景と原因、打開のためのアイデア出しが行われた。
・相談支援の質と量の見える化が必要。
・周辺のコーディネートも含めたスーパーバイズ機能が必要。
・計画相談等の業務繁忙により、在宅者にまで手が回っていない。また、ニーズの大きい方への支援が滞りがち。
・人材を集約してスペシャリストのグループ化。
・法人としての一層のバックアップ体制の確立。
・相談支援に馴染みのある環境が周りにないという意見も。

◇緊急時の受入・体験機能

・主たる介護者の高齢化等を踏まえ、緊急になる前のアプローチが必要。
・「緊急」と言っても、その状況は様々。急病、家族の死等々。
・緊急になる前の体験機能も重要。
・緊急になった場合は、なぜその状況に陥ったのか、その背景へのアセスメントが重要。
・緊急への対応は受入もあるだろうし、分離を選択する場合もある。

◇専門性の確保

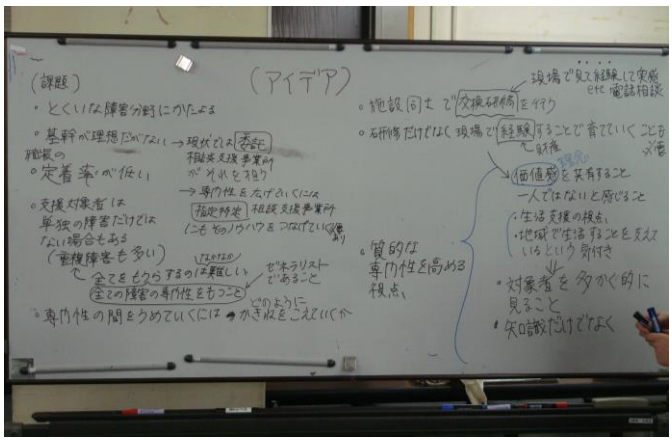
・専門性を考える上で、得意とする障害種別ごとでスペシャリストの方向で行くのか、逆にゼネラリストを目指すのか。
・困難事例への対応として、多職種専門家チームによるアプローチが必要。本人

等が落ち着いたら一般相談支援につなぐなどの役割分担も。

- それぞれの強みを活かしつつお互いを知る機会の確保。実際の支援現場を見て経験する交換研修などがあると良い。
- 職員の定着率の向上が重要。孤立していると離職率も高いため、定着率向上のためにはチームアプローチが必要。
- 専門性について、スペシャリストであるだけでなく、いかにゼネラリストでありえるか。それぞれの垣根を越えて協調していけるか。

5　まとめ（西尾部会長より）

- 各グループとも「アセスメント」と「チームアプローチ」がキーワードになっていた。
- 本部会も一つのチームであり、今回出た課題をチームとして解決に導いていければよい。

6　その他

- 今後のスケジュール等について事務局より説明。
- 次回（第４回）は６月 29 日（水）18 時より開催予定。